

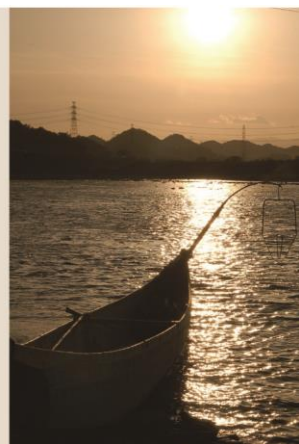


Rotary 

関ロータークラブ

2019-20 年度国際ローターテーマ RI 会長 マーク・ダニエル・マローニー
『ローター：ローターは世界をつなぐ ROTARY: ROTARY CONNECTS THE WORLD』
2019-20 年度 関ロータークラブ会長 テーマ
～私ができる社会貢献をしよう～ 54 代会長 土屋佳久

■会長 土屋佳久 ■副会長 木村 聡 ■幹事 尾崎嘉彦
白田龍司



■例会：火曜日 12:30

■例会場：関市本町 6-20 大垣共立銀行関支店 2F

■事務局：関市平和通 7-10-25 アメリカ 2F

本日のプログラム 第 2572 回例会 2020 年 6 月 23 日(火)



「岐阜県から見た関市」 岐阜県議会議員 尾藤義昭様



前例会の記録・第 2571 回 6 月 16 日(火)12:30

「会長エレクト研修セミナーの報告」
会長エレクト 木村聡さん
於：関市文化会館 3F 3・4 会議室

◆ビジター紹介

東海北陸道グループ
ガバナー補佐 深瀬清様
東海北陸道グループ
次期ガバナー補佐 藤代昇様

◆会長挨拶



本日は 2/18 以来の例会再開日となりました。今の本当の気持ちとしましては再開してよかったのか？これが正解だったかは正直分かりません。この間私からも 2 回のメッセージを出しました。1 回目(4 月)には、私たちが今できる社会貢献はコロナウイルス収束の為の個々の行動だと思えます。と書きました。現在も収束しておらず今できることといえば、なるべく人と人との接触を減らす事。これは変わっていません。ただロータークラブは 6 月で区切りです。3 役 4 人で話し合い、今月から再開しよう！となり今に至っております。本日は沢山の出席ありがとうございました。今日はこの間の色々な出来事の報告をさせていただきます。

◎残念な出来事

3 月～5 月の例会の休会。3/20. 21 に予定していた親睦家族旅行の中止。地区協議会の中止、地区大会の延期(来年 5 月予定)。

◎理事、役員会での決定事項

例会休会に伴う例会費など・・・次年度に繰越
◎会員の皆様への感謝
・ローター財団寄付
年次基金寄付 1 会員 150 ドル・・・達成
今年度の目標であった「ポリオ根絶」の為の寄付
1 会員 30 ドル・・・達成
フェイスシールド寄贈・・・理事役員会の承認を得て寄贈しました。
今後この様な寄付なども話があるかと思えます。私たち関ロータークラブは今できる社会貢献をこれからもしていきましょう！

◆委員会報告

◎出席委員会 委員長 栗倉晋吾
会員 50 名中 出席 34 名 出席率 70.83%

◎ニコボックス委員会 委員 高木登企久
会長・副会長・幹事の皆さん・・・皆様ありがとうございます。2 月 18 日以来の例会となりますが、ご出席いただきありがとうございます。皆様にお会いできて大変うれしく思います。また、深瀬様、藤代様、本日はご来訪ありがとうございます。ご指導よろしく願いいたします。

ガバナー補佐 深瀬清様・・・本日はよろしくお願いたします。

次期ガバナー補佐 藤代昇様・・・来期よろしくお願いたします。

杉浦、酒井、藤井、加藤(浩)、林(昇)、大澤、古田、三輪、加藤(照)、高木(登)、後藤、西田、山田、福田、栗倉の皆さん・・・大変長い間の休会でしたが、こうして皆様とお会いし、例会が再開できたこと、うれしく思います。

塚田浩孝さん・・・長い間休んで申し訳ございませんでした。当分の間は日本におりますので、積極的に出席したいと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。

◆幹事報告

◎新会員候補者2名の発表

新会員の入会にあたって異議ある会員は本日より7日以内にその理由を文書で記名捺印のうえ、幹事までご提出ください

◆「会長エレクト研修セミナーの報告」

会長エレクト 木村聡さん



皆さま、お久しぶりです。コロナ禍による3ヶ月以上の休会から、ようやく例会が再会されました。各々生活に仕事にと大きな影響があったのではないかと思います。今回ご報告させていただきます。

ただ「会長エレクト研修セミナー(PETS)」、「地区研修・協議会」も例外ではなく、今年は3時間を超える動画配信によるセミナー受講となり、所感をガバナーエレクト事務所にお送りするという異例の形で行われました。一生懸命理解に努めましたが、何せ一方通行の形式であることと、普段の不勉強も有り、必ずしも正しく理解できたかどうか不安な点もございます。ベテラン会員の皆様でお気づきの点等ございましたら、遠慮無くご指摘ください。また一年間勉強させていただく中で、よりお理解が深まった折には、随時ご報告させていただきたいと思っておりますので、悪しからずご了解ください。

さてまずは「国際ロータリー(RI)」についてです。

2020～21年度のRI会長はドイツ、クトウム・ラウエンブルグ・メルンRCのホルガー・クナーク氏で、テーマは「ロータリーは機会の扉を開く」です。ロータリーは、ポリオ根絶のように大規模で歴史的なプロジェクトから、地域社会でのささやかなプロジェクトまで奉仕の機会を無限に開いてくれます。そのチャンスの扉を開きましょう。奉仕の扉を開きましょう。そしてその扉の向こうには、成功・成長・発展があります。ロータリーの未来を定義するのは「革新性」、「柔軟性」であり、それをもって行動しようと呼びかけています。キーワードは「Unite and Take Action」。

続いて「第2630地区」についてです。

2020～21年度のRI第2630地区ガバナーは、高山中央RCの剣田廣喜氏で、何と二度目のガバ

ナーとなります。地区方針は「伝統的日本ロータリーの文化を輝かせ、真のイノベーションへ」と掲げられました。

ロータリーのあるべき姿として、職業人の集まり(事業/専門職業/地域社会のリーダー)としてのロータリーと、昨今RIが力を注ぐ人道的奉仕団体としてのロータリーとのバランスを危惧してみえ、伝統(職業奉仕、例会出席)を守りながらもその中から新しいものを見つけ、そこから時代に合った新たなものを創造していかなければならない。つまり、単に昔に戻るのではなく、むしろイノベーションのために、改革のためには本質的なものに戻る、本質を見極めることが大切であると訴えられています。

私個人としては、もしロータリークラブが単なる人道的支援団体であったなら、恐らく40代前半では入会しなかったと思います。何故入会したのだろうと考えると、やはり「職業人としての集まりとしてのロータリー」で述べられた四つの意義があるからでしょう。特に若い経営者をメンバーとして取り込むにあたっては、これ無くして会員拡大は望めないのではないのでしょうか？世のためになる活動を通じて自己研鑽でき、素晴らしい仲間を得、それらが自分の事業に生かせる。志がある人であれば、参加する価値が十分にあると思ってもらえます。そう考えると「職業奉仕」や「例会は道場」といった日本のロータリーの伝統的価値観を高いレベルで実現していくことが益々重要なのだと感じました。

PETSと地区協議会の報告、そして所感を述べさせていただきました。ご静聴ありがとうございました。



次例会のご案内 7月4日(土) 18:00
「通常総会」※7/7(火)の変更 ※6/30(火)休会
於：日本料理だいえい